

令和7年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

小学生の部

可児地区更生保護女性の会 会長賞

「だれもがくらしやすい街を目指して」

可児市立旭小学校 5年

渡邊 束咲

毎日のようにニュースにのる殺人事件。私は、殺人事件のニュースを耳にすると心が苦しくなる。悲しくなる。きっと良い気持ちの人なんていないだろう。私はそんな残酷なニュースを聞くと毎回思ってしまう。

「どうしてこんな事が起こってしまうのだろう。どうしてこんな事をする人がいるのだろうか・・・。」

と。私の周りの人達は、みんなやさしくていい人ばかりだ。だからなおさらそう思ってしまった。ただ、ニュースを毎回聞いているうちに、

「もちろん犯罪や殺人をした人がわるいけれど、事情があるのだろう。」

と感じるようになった。

そこで、毎日一日一日の生活をふり返ることにした。ふり返っていると毎日の生活で大切ないつもの私の日常を明るくしてくれている存在に気がついた。それは、「あいさつ」だ。私には毎日、

「おはよう。」

と言ってくれる母がいる。

「大好きだよ。」

と言ってくれる家族がいる。

「いってらっしゃい。気をつけてね。」

と言ってくれる地域の人達がいる。私はその人達とあいさつの存在が私の毎日を明るくしてくれているものと気づいた。だから私も苦しんでいる人達に明るい環境をあげたいと思った。だれかを殺してしまったり犯罪をしてしまった人達には心の中に不安や苦しみがあるのかもしれない。その人達には私たちにないものがないのかもしれない。私は犯罪や殺人をしてしまった人の気持ちは分からないし、その人を変える事もできない。けど、くらしやすい街、環境をあげることはできる。だから私は自分の毎日を明るくしてくれている「あいさつ」を広げたいと思った。あいさつを広げることで犯罪や殺人がなくなるわけではない。だけどコミュニケーションを取って、たよれる人を作ったり、あいさつをして明るい毎日にしたりしてあいさつで明るくて、だれもがくらしやすい場所、街を作っていけるのではないかと考えたのだ。そして私は決意した。自分達にできるあいさつで少しでもみんながくらし

やすい街にしていこう、と。そして私はあいさつを始めた。もしかしたら周りにも苦しい思いをしている人がいるかもしれない。けれどその時は私がお子に明るい環境をあげたい。ずっとそんな思いを心にして朝や学校、休みの日もいつでもあいさつをしている。どんどんと広がるあいさつで一人でも多くの人が笑顔でくらせる日が来るように。